

まちセン旅日記

客員研究員 脇田 弘樹(愛南町総務課)

旅をするとそれまでの価値観や人生観が変わるといわれる。しかし、変わると言うよりもむしろ、旅先で出会うさまざまな人や暮らし、文化とこれまでの自分の中にあった価値観が衝突して、新たに価値観が再構成されているのだと思う。

旅先で見たり感じたりすることは、いちいち新鮮で刺激的だ。そこでは自分の中の常識を覆されることもしばしば。いつの間にか持っていた自分の思い込みに気付かされたりする。そうしてグラグラ揺さぶられたかと思ったら、次の瞬間にはジーンと感動していたりするのにも旅の魅力だろう。

私にとって、えひめ地域政策研究センターでお世話になった2年間は、まさにそんな旅だった。

* * *

2005年6月、「この夏『石畳を思う会』がスイスに研修に行く。今ならまだ間に合うから手を挙げれば連れて行ってくれるよ」。そう誘ってくれたのは、えひめ地

域づくり研究会 相談役の岡田文淑さんだ。

いま思えばこの言葉に反応したことで、この後、随分いろんな人との縁が出来ていくことになった。これがセンターでの旅のはじまりを告げる一言だったとも言ってもいい。

後日、内子町で「石畳を思う会」の大本雄さんと宝泉武徳さんにお会いする機会があり、そこで会の活動や組織のあり方を聞いた。二人とも語り口はとても穏やかなのだけど、そこに込められた地域に対する思いは、溢れんばかりだった。こんなに高い意識を持って活動をしている人たちがいることに衝撃を受けた。

「石畳を思う会」は、昭和60年の発足以



環境と経済を両立させるホテル、ウクリファ。美しい景観の中で飲むビールはもちろん最高



来「自立」というキーワードを大切にしていく。スイス研修についても、早くから積み立てをするなど、準備を進めていて、もちろん自費で行く。そんな話を聞くと、この成熟した精神を持った人たちの旅に同行させてもらっただけで、何か得るものがあるんじゃないかと思うようになっていた。

スイスでは、環境への配慮を徹底したエコホテルに宿泊して、環境と観光を学んだ。ホテルの外に出れば、そこには本当に気持ちのよい空間が広がっている。その景観を目の当たりにして「スイスの美しさは偶然ではない」と聞かされ目の覚



ゲルテイさんを招いての交流会。小田川をめぐるまちづくりの原点に触れた

める思いがした。

この時学んだ近自然学（詳しくは舞たうん87号、88号で兵頭さんがレポート）は、新たな豊かさの指標を教えてくださいが、これが縁となって、この後、五十崎のまちづくりを学ばせてもらうことになる。

* * *

2005年10月、「近自然学の事例が身近なところにある」。そう聞きつけて参加した四十市での「多自然型川づくり15周年記念シンポジウム」。スイスから招かれたクリスチャン・ゲルテイさんの基調講演に続き、「まちづくりシンポの会」

（五十崎）の亀

岡徹さんが小田川の取り組みを事例発表した。

後日、ゲル

テイさんを内子町に招いての交流会にもこのこと参加させてもらったのだが、そこで彼らが出会った当時の思いに触れて感銘を受けた。活動に携わった人たちの出会いの連鎖は、まち



蚊帳が張られた水平線の家。この後、朝まで怪しい光に包まれた

づくりシンポの会が掲げる「美しいネットワーク」そのものだった。これが決定打となって、以来、亀岡さんをはじめとする五十崎の方々には、小田川をめぐるまちづくり、商工会を中心とした産業づくりなど、ことあるごとに（ことがなくても）ご指導をいただいている。

この頃「舞たうん」の編集にも取り組んだ。スイスでの研修も影響したが、最後は自分の足元を見直してテーマを「交流」に決めた。地域は交流によって外からの刺激や評価を受ける。それが自分たちの地域を見直すきっかけにもなるだろうし、そこに住むことの誇りや自信を深めてくれると思うからだ。これは取材を進め

るうちに、交流で人が元気になっているのを目の当たりにして、確信に変わっていった。

「舞たうん」発行の半年後のことになるが、私はその最たるものを若松進一さんの人間牧場で体験した。逆手塾だ。当時、完成したばかりの水平線の家へ、全国の地域づくり人がエネルギーを持ち寄った。強い個と個のエネルギーがぶつかるものだから、その相乗効果は凄まじく、一晩中、水平線の家を怪しい光で包んでしまったほどだ。しかしその中で、共に学び、笑い、感動した参加者は睡眠時間に反比例して絶対元気になって帰っていったはずだ。

* * *

センターでの旅は、特に多くの得難い出会いをもたらしてくれたが、同時にこの2年間で、えひめ地域づくり研究会議20周年の節目にあったことは幸運だった。研究会議の運営委員の皆さんと、一連のプロジェクトを共有できたことで、この旅は深みを増したと思っている。

センター在籍中、ご指導をいただいた皆様に心から感謝します。

愛南町に帰って半年、前進したり戻ったりしながらですが、これからもここで言葉の確認作業を続けたいと思っています。今後ともよろしく願います。